

【平成 21 年度第 2 回東海ブロッククラブミーティング 2009 開催報告】

平成 21 年 11 月 7 日（土）・8 日（日）静岡県（東海軒会館・静岡県体育協会会館）にて第 2 回東海ブロッククラブミーティング 2009 が開催された。

今回のミーティングでは参加対象が分かれており、第 1 日目（11/7（土））では静岡県・愛知県・三重県・岐阜県より創設支援クラブ（1 年目：6 クラブ、2 年目：7 クラブ）、また他県より茨城県の創設支援クラブ（1 年目：1 クラブ）も参加し、合計 37 名であった。

第 2 日目（11/8（日））では設立した総合型クラブを中心として開催し、東海ブロック県内の創設支援クラブ（1 クラブ）、活動支援クラブ（5 クラブ）、静岡県の連絡協議会加入クラブ（2 クラブ）が集まり、参加者は合計で 37 名であった。

開催内容については、以下のとおりである。

<第 1 日目内容>

【基調講演】講演者 東海ブロック地方企画班 班員 高橋正紀氏

テーマは「スポーツマンのこころ」と題し、講演いただいた。主な内容は次の通りである。

指導は大学時代の少年指導を始め、30 年以上サッカー指導を行っており、さまざまなカテゴリーの子供たちやあらゆる年代に色々な場所で「スポーツ」というものが持っているポテンシャルを実際に試しながら地域に認められていくような形にしたい。その中で、「スポーツ」とは何だろう。どういうふうを考えてスポーツを教えたらいいのだろう。と考えたときに以下のことを理解することによって、「スポーツとは何か。」が見えてくるのではないかな。

まず、スポーツは「ゲーム」であることを理解すること。ゲームであるからには「楽しむ」ということが皆（自分・仲間・相手）の目的であること。であり、ゲームは真剣に「競ったり・勝敗を争う」ものである。またゲームにおいて「ルール」が果たしている働きを理解すること。ゲームにおける「楽しさ」や「競争」は、適切なルール設定によって創られ守られており、

自分がスポーツを楽しむ続けるためには「スポーツマンのこころ」が必要なことを理解することが大前提である。「自分を大切にできるこころ」とは、大切な自分の価値をより高めるために「挑戦し」、「困難に打ち克つ」ことである。そのために不可欠になるのが「絶対にあきらめないこころ」、自分の楽しさのために不可欠な「仲間」を大切にするために「“仲間のために”を大切にできるこころ」・「自分が苦しい状況のときでも仲間に声をかけたり、手助けできるこころ」、自分の楽しさの目的である「ゲーム」を大切にするためにゲームを



行うのに不可欠なルールや相手や審判を大切にすること、すなわち「自分の気持ちがどんなに乱れても、「ゲームの場」の楽しさを壊すような行為をしないように心掛けるころ」である。

この3つのここでは、常に「自分のため」がスタート地点に設定されている。その理由の一つとして、心理学的な考え方にある「自尊感情（自分の価値の理解）の発達」からのみ高いレベルでの「他者の尊重（他者の価値の理解）」は実現される。

「負けること」や「失敗すること」は恥しいことではない。世の中には失敗したくて失敗する人や負けたくて負ける人はほとんど存在しないからである。また「恥」という感覚は人間の「名誉（=人格）」を傷つけるものであるため、「勝敗」というものが必然的に存在し「楽しむ」ためのゲームにおける「失敗」や「負け」を「恥」だと感じてしまうことには大きな危険性（=スポーツ離れ・スポーツ嫌い）が潜んでいる。では、スポーツにおける「負け」や「失敗」をどう考えればいいのか。ゲームにおいては当然、真剣に「勝利」を目指すからこそ「楽しい」と言えます。ゆえに、最後まであきらめずに、とことん頑張り尽した上における「負け」や「失敗」に対しては、「とても悔しいこと」として捉える必要があります。

「悔しい」という感覚であれば、名誉や人格とは別の次元になり得ますし、この「悔しい気持ち」こそが自分自身のステップアップ（改善）への大きな原動力になるのです。実は、頑張った結果の「負け」や「失敗」の中には、自分がスポーツをより楽しむための修正点がハッキリと示されているのです。

【グループディスカッション・全体発表】

テーマは、総合型地域スポーツクラブに必要な「人・モノ・カネ」と題し、東海ブロック第1回クラブミーティングと同じグループでグループディスカッションを行いました。同じグループでの話し合いを行った理由としては、第1回で話し合われた疑問や問題点に対して、各クラブにてどのような話し合いを行ったか、また、どのような活動を行ったか、成果、や課題解決を行うことができたか、また、新たな課題は何か等を話し合うことにより、総合型クラブ創設に向け一歩前進できるのではないかとの考え、実施することといたしました。

各グループで話し合った内容は次の通りである。

A グループ

- ・会費設定について、各クラブが現在考えている設定について紹介を出し合う。
- ・隣接クラブとの連携をしていくことが大切である。そのためにはクラブ間の情報交換が必要では



- ・施設利用について既存の団体との調整が必要である。
- ・クラブマネージャーへの謝金の問題（有償か、ボランティアか）

B グループ

- ・地域で総合型地域スポーツクラブの認知度が低い、そのためには
 ※地域との密着をするためにはインパクトのある事業を行うこと、また、内容次第では口コミで広げていくことが大切
 ※ヒトについては指導者として体育指導委員、体育協会にお願いする。
 ※事務局が楽しいことが継続につながる

C グループ（ヒトを中心に話し合った。）

- ・設立を目指すのには体育指導委員、体育協会関係者の関与が必要
 その他事務関係に必要な人材を確保していかなければ
- ・設立準備会のメンバー探しにはイベントなどの事業の中で探し協力を求める。
 地域によっては体育指導委員の考えと体育協会関係者とではバラつきがある。

D グループ

- ・totoの事務処理が繁雑で事務処理が大変である。
- ・事務局の熱意が低くなると運営等にひびいてくる。
- ・プレー事業、イベント等に力を入れて取り組んでいくことがスポーツクラブの認知度を高めることである。
- ・行政主導のクラブではいかに地区住民に受け継いでいくかが課題である。
- ・事務局と指導者とは一線を引くことが必要ではないか。

<第2日目内容>

【事例発表】コーディネーター 東海ブロック地方企画班員 班長 板垣 晶行氏

趣旨説明及び、発表テーマ、4クラブの紹介を板垣班長より行った。

また、静岡県掛川総合スポーツクラブにおける「クラブ内クラブ」「ボランティア活動と地域通貨」の取り組み事例について紹介いただいた。

各テーマの発表内容は次の通りである。

①テーマ：「小さなまち（地域）のスポーツクラブ」 長岡スポーツ文化クラブ（三重県）

鳥羽市相差町長岡地区で活動している発表クラブの対象地区は、人口が約23,000人という小さな漁村である。鳥羽市中心部から離れており、人間関係が希薄になりつつあることやスポーツ活動の種目が少ないなどの懸念があり、スポーツ少年団や体育指導員が母体で設立されたクラブである。



「あなたは近所の子どものお名前を何人知っていますか？」と呼びかけ、子どもからお年寄りまで気軽にスポーツや文化活動に親しめる環境づくりをすることで、元気なまちづくりに貢献したいと活動している。

課題は指導者の確保や教室の質の向上、スポーツ施設の充実などを挙げているが、小さな地域の「人間味豊かなコミュニティづくり」を目指し、今後も頑張ってもらいたい。

②テーマ：「学校との連携」 広幡スポーツクラブ（静岡県）

発表クラブは、藤枝市の広幡地区の自治会を母体としたクラブで、拠点施設は広幡公民館であり、設立の経緯も自治会長を代表とした自治会体育部が担当した。

対象地区内には小学校と中学校がそれぞれ1校と幼稚園が1園あることで、設立準備の段階で学校関係者にも準備委員会の委員に参画していただき、地域「学校との連携」を活動の目玉としている。

中学校との連携は、学校側の要請によりクラブが推薦する指導者を部活に派遣したり、学校との協働で課外スポーツ教室を開催している。

小学校の場合は、生徒はスポ少の活動が盛んなため特に支障はなく、逆に父兄の運動不足が提起されその対策として、クラブがプログラムを提供している。

また、幼稚園では親子体操教室の計画があるという情報の元、クラブの関わり方を検討した結果、現在ではクラブ主催で様々な親子教室やミニサッカー教室を実施している。

これまでは組織づくりと各団体との連携や指導者の発掘などで苦労したが、小規模地域のため手作りの運営ができています。



③テーマ：「指定管理者として活動しているクラブ」

NPO 法人いさとスポーツクラブ（愛知県）

発表クラブは愛知県豊田市にあり、平成17年8月に設立され中学校区単位で活動しているクラブである。

クラブのミッションは、「ふれあいの場や健康づくりの場環境の提供」とあるように、豊田市というスポーツ施設に恵まれている地域の優位性をうまく取り込んでいる。

平成20年度にはNPO法人を取得すると同時に、市内運動公園の指定管理業務も開始している。これは、これまでの行政関係者や自治会関係者、体育指導委員などとの連携がうまく機能しているためであろう。



今後は、指定管理者としての業務を全うするとともに、当業務は有期なので指定管理ありきの発想は、大変大きなリスクを抱えていることの認識を持つことも大事である。

④テーマ：「地域とのつながりを持った事業展開について」なかよしクラブすなみ（岐阜県）

発表クラブの理念は、三世代（高齢者・成人・青少年）の交流と健康な地域づくりを目指している。設立は市体育指導委員などを中心に立ち上げ、目的実現のため各種教室やイベントなどを展開している岐阜県瑞穂市のクラブである。

特に、地域活性化のために力をいれているのが、「盆踊り」の取り組みである。定期的な「盆踊り教室」を導入することで底辺の拡大を図り、事前の雰囲気盛り上げるため、有名な「郡上八幡盆踊りツアー」を実施、いよいよ夏祭り「盆踊り大会」の開催である。

地域に広がる盆踊りの輪が、三世代の交流や青少年の健全育成など、地域づくりの成果が見えてくる。



最後に各事例発表の内容について、地方企画班員また SC 全国ネットワーク幹事長の小倉氏から、助言や意見・感想などをいただきまとめとした。

（報告：東海ブロック地方企画班員 板垣昌行、片岡康行）